

若松台小学校の学校適正規模・適正配置に係る地元代表協議会 第4回協議会 議事要旨

1 日 時 令和8年3月3日（火） 18時30分～19時50分

2 会 場 若松台小学校 探究ラボ

3 出席者

- (1) 委員 10人
- (2) 事務局 6人
- (3) 傍聴者 10人

4 報告・協議

- (1) 報告（教育委員会より）
- (2) 協議に係る論点整理
- (3) 地元代表協議会における協議内容について
- (4) 協議
- (5) 連絡事項等

5 会議資料

- (1) 若松台小学校の学校適正規模・適正配置に係る第4回地元代表協議会資料

6 議事の概要

(1) 【報告】各団体より

- ・事務局より、地元説明会を開催したことが報告された。

(2) 【協議】学校適正配置（案）の選択について

- ・事務局より、協議に係る論点が示された。
- ・事務局より、これまでの地元代表協議会における協議内容が確認された。
- ・協議に係る論点や留意点を踏まえた協議が行われた。
- ・協議の結果、「学校適正配置（案）を選択しない」ことが結論付けられた。

(3) 地元代表協議会について

- ・地元代表協議会の目的を果たしたことをうけ、事務局より協議会の廃止が提案された。
- ・地元代表協議会を廃止することが結論付けられた。

(4) 【その他】諸連絡

- ・第4回地元代表協議会の議事内容は要旨としてまとめ、教育委員会のホームページを通して公開することとされた。

7 発言要旨

(1) 開会

〈司 会〉 ただいまより「第4回若松台小学校の学校適正規模・適正配置に係る地元代表協議会」を開催する。本日は、本協議会会長、小倉小学校 PTA 会長、若松小学校保護者会副会長及び若松中学校 PTA 会長の4名が欠席。次に、本協議会の会長を代理して副会長よりご挨拶いただく。

(2) 会長挨拶

〈副 会 長〉 本日はお忙しいところ、寒い中お集まりいただき感謝申し上げます。若松台小学校の学校適正配置について前回の協議会では「学校適正配置（案）を選択しない」という方向性が導き出されてきている。このことについて本協議会としての意見をまとめた。若松台地域の子どもたちの将来の教育環境についてしっかりと協議ができるよう、よろしく願います。

(3) 教育委員会より報告

〈議 長〉 まず、前回協議会から本日までの間に開催された地元説明会について、事務局から報告をお願いします。

〈事 務 局〉 【2月14日実施の地元説明会について報告。内容は説明資料参照。】

(4) 協議に係る論点整理

〈議 長〉 第3回地元代表協議会では「学校適正配置（案）を選択しない」という概ねの方向性が確認されたものの、一旦、協議内容を各委員が持ち帰り、可能な範囲で各団体の意向を確認して本日再度協議をすることとされていた。改めて学校適正配置（案）を再確認するなど、しっかりと協議を深めたうえで協議会としての意見を集約していきたいと考えている。まずは事務局から「協議に係る論点整理」及び「地元代表協議会に係る協議内容について」説明をお願いします。

〈事 務 局〉 【資料に沿って説明。内容は資料参照】

(5) 協議

〈議 長〉 ただいまの事務局の説明を踏まえて協議を行う。最終的には、学校適正配置（案）の取り扱いについて意見を集約するが、まずは事務局の説明に関して疑問点や確認点があれば挙手をお願いします。

〈若松台2丁目自治会長〉 「学校適正配置（案）を選択しない」場合は複式学級となる可能性があるとして推計を掲載しているが、令和11年度（3名）と令和13年度（2名）の1年生は複式学級とならないのか。

〈事 務 局〉 複式学級については、2つの学年の児童で編制する学級において16人以内であるが、1年生を含む学級は8人以内という規定となっている。

〈若松台小 PTA 会長〉 「学校適正配置（案）を選択しない」場合であっても、要望があれば若松小学校との合同授業等、交流活動は可能なのか。

〈事 務 局〉 まず、前回の保護者説明会において「今年度、2校合同で行事を実施する提案があったそうだが、なぜ実施しなかったのか」というご質問を頂いていたので、ここで回答

する。若松台小学校に確認したところ、秋の陸上競技大会の練習期間において、若松小学校から、若松台小学校の運動場を使用できないかといった相談はあったようである。交流が目的ではなく、若松小学校の運動場大規模改修（運動場が使用できない）に伴う使用の相談が主旨であったことを伺っている。その際、合同練習の話もあったが、練習内容の調整等で配慮すべき点や若松台小学校より近い若松中学校の運動場を借りられることになったため、実施には至らなかったと伺っている。

また、本日欠席している若松小学校保護者会副会長より合同授業について同様のご意見を頂いているので、ここで紹介させていただく。

〈若松小
保護者会副会長〉

子どもたちから「若松小学校に行きたい」と言ってもらえるような交流を行ってほしい。例えば月1回程度、歩いて若松小学校に行き、半日一緒に勉強する。また校外学習を合同で行くなど。

【事務局代読】

〈事務局〉

交流活動を通して適正規模校での教育活動を定期的に体験することは統合の機運を高める手段の1つになる可能性はある。一方で、定期的な交流活動をした場合は、その計画や準備に係る教職員の負担、安全面を含めた移動に係る子どもたちの負担が大きい。また、そのような負担と得られる教育効果を比較して考えていく必要もある。それらの課題を踏まえると、交流活動は期間を定めたくえで集中的に取り組むべきであると考え。現時点で「学校適正配置（案）を選択しない」「統合を見送る」という判断をするのであれば、統合を見据えて交流活動を行うことは矛盾した対応となるので行うべきではないと考える。また、小規模校のデメリットの軽減策として、今まで以上の交流活動を行うことについても、先ほど申し上げた教職員や児童の負担、教育効果の観点から慎重な検討が必要である。なお、これまでも行われている球技大会等の従来の教育活動における近隣校との交流は、引き続き可能な範囲で学校長の判断により取り組まれると考えている。

〈若松台小
PTA会長〉

仮に学校適正配置（案）を選択しない場合には、教育委員会としては「小規模校から適正規模校への合同授業等は特段推奨しない」ということでよいか。

〈事務局〉

お見込みのとおりである。教育課程はその年の児童の学びのために学校長が教職員と共に編成していくものとなることから、統合が決まっていなければ、教育委員会から学校に指示を出すということはない。

〈若松台3丁目
自治会長〉

通学距離について、「若松台1丁目～3丁目と同等の距離を他校においても通学実績あり」と記載があるが、これは水平距離ではないのか。若松台3丁目から若松小学校への通学路には急な階段が2か所ある。風水害がある時にはここを通るのは困難である。迂回するにも歩道がほとんどない。通学路への不安を感じて反対している保護者が多いことから、通称「からすの森」を通学路として整備できれば通学に関する不安も減ると考える。

〈若松台2丁目
自治会長〉

学区外通学をしている子について記載があるが、これは承認事由に当てはまることから認められたのか。承認事由にはどういったものがあるのか。

〈事務局〉

学区外通学をしている児童はいずれかの承認事由に該当して認められている。学区外通学の承認事由は千葉市共通のものとなっている。例として「保護者の就労等により児童の下校後、親戚等の家に預ける必要がある」場合などがある。しかしながら、保護者や子どもが望む学校規模の小学校への通学は、学区外通学の承認事由として認

められていない。

〈議 長〉 各委員において前回の協議会の協議結果を持ち帰り、各団体で話し合いがなされたなど、動きがあれば必要に応じて報告をお願いする。各団体の意見も踏まえ、引き続き協議を深められればと思う。ご意見はあるか。

〈若松台1丁目
自治会長〉 自治会として議題は出したが、特に新しい話はない。住民からは「反対」という意見が多い印象である。

〈若松台2丁目
自治会長〉 児童を抱える世帯が多くないことからあまり反響はないが、特別支援学級に通う父兄からお話を聞くことができた。若松小学校に統合された場合は通学が難しいとのことだった。バス通学についても聞いてみたが、バスに乗れないとの話があったことから、若松台小学校を残していただきたいとのことだった。

〈若松台3丁目
自治会長〉 12月～2月の期間においてアンケートを実施した。総世帯643世帯中、107世帯から回答いただいた。内訳としては、賛成14世帯、反対85世帯、判断できないが8世帯であった。個別にヒアリングしたところ、やはり主な意見としては、通学路に関する不安が多い。印象深かった意見もあったので紹介したい。「統合するのであれば若松台小学校における新入生は令和8年度までとして、令和9年度1年生から若松小学校に入学させてもらいたい。令和11年度に統合すれば、精神的な負担、通学負担も減るのではないか」という意見であった。いずれにしても、アンケート結果に沿って3丁目は反対する。

〈若松小
保護者会長〉 「学校適正配置の協議の状況はどうなっているのか」という問い合わせはあるものの賛成・反対といった意見はない。

〈若松台小
PTA会長〉 1月に実施したアンケート結果のとおりで、保護者の意見は出ている。それ以降の意見は特にない。

〈事務局〉 事務局として今一度お伺いしたい。今後、若松台小学校の児童数は、大きな傾向として児童数が減少する見通しである。このことを踏まえたうえで、結論を出す前に今一度考えていただきたい。学校適正配置（案）を選択することも、選択しないことも利点や課題があり、その捉え方も人によって異なる。地元代表協議会では、それぞれのご意見や必要な情報を踏まえ、総合的に判断いただきたい。今後も、若松台小学校の児童数は減少傾向が続き、1学年当たりの児童数が1桁となってしまう可能性が高い。このことを踏まえたうえで、子どもたちの学習・生活の場として、学校はどうあるべきか。今後の見通しも含めて各委員のご見解をいただきたい。

〈若松中学校区
青少年育成
委員会副会長〉 個人的な意見となるかもしれないが、子どもの成長というところを考えると、学校は学力を向上させること以上に社会性を育てるという目的がある。友人やまわりにいる人達と関係を築くことで成長すると感じる。たくさん子どもたちの中で、自分と異なる様々な意見を見聞きしたり、考えを伝え合ったりすることは、とても大切なことであると感じる。1クラス3、4名となることを踏まえると、小集団の中で社会性は育つのかと心配になる。小規模校の良さもちろんあるが、もっと子どもたちが育つ輪を広げてあげたい。子どもたちの成長・発達という点での議論が足りていないのではと感じる。学校において社会性を育てることは大事なことで、家庭や、教員との関係だけでは不十分である。子どもたちの成長の芽は、ある程度の人数の中で育まれていくのではないか。そういった点でもっと議論の余地があってもよいと思う。

- 〈議長〉 議長の立場として中立であることから個人的な意見は今まで発言することはなかったが、お話しさせていただきたい。この中で複式学級があるような小規模校に子どもを通わせた経験がある方はいらっしゃるか。あまりいらっしゃらないと思う。小学校1～2年生の1年程度、全校児童数40名くらいの学校に娘を通わせたことがある。アットホームな雰囲気であったが、娘の学年は男子2名、女子1名だった。低学年であったこともあり、性別関係なく仲良くしていたのは小規模校のいいところであると感じた一方で、同級生の少なさから、友達と遊ぶという機会がほとんどなかった。こちらに引っ越してきて小倉小学校に通った際には、同級生の女子も非常に多くいたことから娘はとても喜んだ。子どもたちの性格によるところも大きいですが、小規模校の良さもあれば、ある程度の人数がいる学校規模の良さもある。この話を聞いたとしても、今の若松台小学校の保護者の方が「統合しない」という意見は変わらないと思う。ただ、数年先にはさらなる課題があることは間違いなく、今回挙がった懸念事項も大きく変わることはないだろうと思う。今回の地元代表協議会の検討事項を今後考えていただきたい。数年後、「学校適正配置が必要なのでは」と悩んでいる保護者の方がいるようであれば、地域の方々ぜひ寄り添っていただきたい。
- 〈若松台2丁目自治会長〉 若葉区内に若松台小学校より規模が小さい学校は千城小学校と更科小学校の2校しかない。千城小学校は全校児童17名で、全て複式学級であり、更科小学校は近隣に小学校がないという状況もあり、複式学級があるという状況である。今、統合しないと、これらの規模になるまで放ってしまわれるのではないかと心配である。
- 〈若松台小学校外指導事務局〉 この先、複式学級になった場合やその後に、地元から声が上がれば教育委員会は再び検討してくれるのか。
- 他の学校も含めて、毎年、小規模校の学校長から意見の聞き取りをしている。場合によっては保護者からも意見の聞き取りを行っている。仮に今回の学校適正配置（案）が「今ではない」として選択されなかったとしても、引き続き学校や保護者の方々からの意見聴取は行っていく。また、千城小学校については、何年も議論を続けており、地域が現状維持を望んでいることから統合されずに現在の状況となっている。教育委員会としても更なる小規模化の状況は好ましくないと考えているため、常に話し合いは行っている。更科小学校についても、近隣に小学校はないが、隣の中学校と小中一貫教育校を設置するなど、少しでも大きな集団で教育活動ができるよう努めている。将来的に、保護者の方の希望があれば再び学校適正配置の検討を行うことは可能である。
- 〈若松小保護者会長〉 この協議を始める時から思っていたことなのだが、そもそも教育委員会としては統合したほうが良いと考えているのか、それとも協議の結果、統合しないのであればそれで良いと思っているのか。熱量が高い統合反対の意見も大切だとは思っている一方で、「5年後、6年後を見据えて準備をしてほしい」ということであれば地元の方はもっと前のめりで話を聞いてくれるのでは。本音としてはどう思っているのか。
- 〈事務局〉 千葉市としては、特に100名以下の小規模校においては、優先度1という基準で、教育活動を円滑に進めていくためには統合等、学校規模の適正化が必要であると考えている。こういったことから、若松台小学校における学校適正配置（案）を提案させていただいた。一方で、本市の学校教育は保護者や地域に支えられていることから、

統合についても保護者や地域の理解を大切にしている。

- 〈若松台1丁目自治会長〉 「令和9年度の統合は早すぎるため反対する」という意見が多い。将来的に統合は必要となるのかもしれないが、通学路の整備など、準備を整えた上で統合を提案すべきなのではないか。また、小規模校を望む保護者もいる。若松台小学校における「6年生を送る会」では毎年必ず1人は涙を流す1年生がいる。これは縦のつながりが強いからである。そのことは放課後も同様で、学年や性別の関係なく公園で遊べるのも小規模校だから実現している良さである。
- 〈事務局〉 統合の時期についてお話をいただいたので回答する。この地元代表協議会において、統合時期について学校適正配置（案）を修正し、協議を図ることは可能である。若松台小P T Aアンケートにおいても統合時期に係るご意見はあった。一方で一番多かったのは通学距離が長くなることに関する不安だった。通学距離の延伸を受け入れてでも統合したいという機運が高まっていない状態だと捉えている。統合の理解を得られていない以上、統合時期についての議論をおこなったとしても、合意には至らないのではないかと考えている。
- 〈副会長〉 学校適正配置（案）の見送りは妥当である。この地域において、統合の検討をする時期が違ったのか、協議の期間が足りなかったのかはわからない。しかしながら、今後学年1桁の児童数を踏まえると、不安を持つ保護者や地域住民がいることも事実である。以上のことを踏まえて、教育委員会においては、今後も若松台小学校の様子を気にかけていただきたい。
- 〈議長〉 そろそろ議論を集約する。まずは、教育委員会から提案されている学校適正配置（案）「若松台小学校と若松小学校の統合を令和9年4月に若松小学校の場所で行う」について、地元代表協議会として「選択しない」ということでよろしいか。
- 〈委員一同〉 異議なし。
- 〈議長〉 ここまでの協議を踏まえて、事務局、何かあるか。
- 〈事務局〉 ご協議、感謝申し上げます。本市の学校教育は、学区である地域の子どもを受け入れ、地域の皆様のご協力をいただきながら学校教育に取り組んでいる。このことから、統合の有無を含む学校適正配置の議論は、地域の理解を大切にしながら進めている。地域の代表の方々と構成する地元代表協議会において導き出された地域の意向をしっかりと受け止めていく。
- 〈議長〉 地元代表協議会として一定の結論をまとめることができたので、今後の協議会のあり方について話し合いたいと思う。事務局から提案をお願いする。
- 〈事務局〉 ここまでのご協議に感謝申し上げます。本協議会会則第2条にある協議会の目的「若松台小学校及び関係校に係る学校適正規模・適正配置について協議」することについて、地域としての意向をまとめていただいたと認識している。については、本協議会の役割を果たしていただいたとして、協議会の廃止を提案する。なお、先ほど副会長からも引き続き若松台小学校の状況を注視するようにといったご意見を頂いた。教育委員会としては、今後も、定期的に若松台小学校の管理職や保護者の方々と意見交換等を継続するなど関わりは続けていきたいと考える。
- 〈議長〉 事務局より、協議会の廃止が提案された。このことについて、ご意見等あるか。
- 〈副会長〉 将来的に統合の議論は必要なのかもしれないが、それがいつかは決められない。一定

期間様子を見るということだろう。本日、「学校適正配置（案）を選択しない」と一定の結論を出したのだから、本協議会としては一旦、役目を終えてよいのではないかと考える。先ほども要望したが、教育委員会には若松台小学校の様子を今後も見守り続けていただき、学校教育のプロとして状況を捉えていただきたい。再び地元代表協議会が必要になるのであれば、その時に必要なメンバーで再び設置されればよいと考える。

〈議長〉 委員の地域や子ども達を心配する気持ちは様々あると思うが、地元代表協議会を廃止することに結論付けたいと思う。異議はあるか。

〈委員一同〉 異議なし。

〈議長〉 ご協議感謝申し上げます。それでは、議長の役目を終え、進行を事務局に戻す。

〈司会〉 委員の皆様、遅い時間まで、真摯な協議感謝申し上げます。本来であれば、ここで本協議会の会長から、本協議会の総括としてご挨拶をいただくところである。しかしながら本日、体調不良による欠席の連絡があったことから、残念であるが、会長の挨拶は割愛させていただきます。では、次第5の絡事項に移る。

（7）連絡事項等

〈事務局〉 これまでのご協議に感謝申し上げます。本日の議事内容については、要旨としてまとめ、教育委員会のホームページを通してお知らせする。

〈司会〉 最後に、企画課課長より、お礼を申し上げます。

〈企画課課長〉 教育委員会を代表して、ご挨拶申し上げます。本協議会の立ち上げから今日まで、委員の皆様には多大なるご尽力をいただき、感謝申し上げます。これまでの皆様の真摯なご協議に対し、心より御礼申し上げます。会長、副会長、議長におかれては、会の運営に大変お骨折りをいただいた。各委員の皆様におかれても、協議内容をそれぞれの団体に持ち帰り、ご報告いただくとともに、地域の皆様、保護者の皆様の声の吸い上げをおこなっていただいた。誠に感謝申し上げます。若松台地域の子どもたちのより良い教育環境の整備や教育の質の充実に向けて、皆様と共に検討させていただいたことは、未来を拓く子どもたちの育成を考える上で、非常に有益な時間であったと感じている。この度、学校適正配置（案）「若松台小学校と若松小学校の統合を令和9年4月に若松小学校の場所で行う」については、地元代表協議会の結論として見送られる形となったが、皆様に丁寧にご協議いただいた上での最終的なご判断であることから、教育委員会としても真摯に受け止めさせていただく。今回の協議に関して、しっかりと振り返りを行うとともに、今後の取組みにつなげてまいりたい。本協議会は本日をもって廃止となるが、今後、さらに若松台小学校の小規模化が進み、様々な課題が顕在化してくることも十分に考えられる。教育委員会としては、若松台小学校における教育活動に支障をきたすことがないよう、引き続き丁寧に見守っていく。委員の皆様、そして若松台地域にお住まいの方々におかれては、今まで以上にお力添えをいただき、若松台小学校をご支援いただくよう、よろしくお願い申し上げます。結びとなるが、日頃より学区の子どもたちを支えていただいている委員の皆様のご健康とご多幸を御祈念申し上げ、御礼のご挨拶とさせていただきます。

(8) 閉会

〈司 会〉 以上で、「若松台小学校の学校適正規模・適正配置に係る地元代表協議会」を閉会・散会とする。これまでのご協議に感謝申し上げます。